

平成 26 年度

# 病害虫発生予報第 1 号

平成 26 年 4 月 24 日

## 三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

## 目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	6
4. 予察項目の見方	10
5. 今月のトピックス(イチゴ萎黄病について)	11
6. 気象のデータ	12
7. おしらせ	14

## 1. 向こう 1 か月の予報と対策

### 1) 作物

イネでは、イネミズウムシの発生時期は平年並、発生量はやや多と予想されます。発生状況に応じて防除を行い、常発圃場では、箱施用剤による予防を行ってください。

コムギでは、赤かび病の発生量は平年並と予想されます。開花始めから開花盛期に予防散布してください。

### 2) 果樹

果樹共通では、果樹カメムシ類の発生量は、やや多と予想されます。越冬量が多いため、圃場をよく見回り、早期発見に努めてください。防除はカメムシ類の飛来を確認してから実施してください。

カンキツでは、そうか病、かいよう病は平年並、ミカンハダニの発生量はやや少と予想されます。

ナシでは、黒星病、赤星病、ハダニ類、アブラムシ類の発生量は平年並と予想されます。

### 3) 茶

チャでは、クワシロカイガラムシの発生量はやや多と予想されます。一番茶摘採後の 5 月第 4 半旬～第 5 半旬頃に防除しましょう。カンザワハダニ、チャノキイロアザミウマ、チャノコカクモンハマキの発生量はやや少、チャノホソガの発生量は少と予想されます。

### 4) 野菜

イチゴでは、ハダニ類の発生量はやや多と予想されます。圃場内をよく観察し、寄生密度が高くなるように防除を行ってください。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

## 2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	イネミズゾウムシ	平年並	やや多	中	普通					1) 近年、実害は少ないので、移植後の発生状況に応じて防除してください。 2) 常発圃場では、箱施用剤による予防を行ってください。
コムギ	赤かび病	-	平年並	小	普通					1) 病害虫防除技術情報第1号(4月7日発表)。 2) 開花始めから開花盛期に予防散布してください。 3) 開花前の薬剤散布は防除効果が劣ります。出穂および開花状況を把握し、適期散布を行ってください。 4) 開花期以降に降雨が続く、気温が高く推移した場合は、第1回散布の7~10日後に追加散布を行ってください。
カンキツ	そうか病	-	平年並	小	低					1) 県予察圃(御浜町)では、本年の春葉での初発は4月15日(平年4月19日)とやや早い状況です。 2) 発芽期の防除を実施することで、その後の発生を抑えることができます。 3) 新葉に病斑が見られる圃場では、その後果実へ感染しますので、幼果期の防除を計画してください。
	かいよう病	-	温州 平年並	温州 小	温州 低					1) 越冬病斑が見られる圃場では、新葉や幼果へと感染していくので、初期の予防散布がポイントです。 2) 越冬病斑が多い圃場では、伝染源となる発病葉及び発病枝は除去し、圃場外で処分してください。 3) 3~4月に防除を実施していない圃場では、5月に防除を実施してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	ミカンハダニ	-	やや少	小	普通	成ダニ密度				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 冬期にマシン油乳剤を散布していない圃場では、新梢伸長期に急増することがあるので注意してください。</li> <li>2) 発生量は圃場によるばらつきがあるので、発生状況をよく観察してください。</li> <li>3) 成虫が1葉当り0.5～1.0頭になったら防除を計画してください。</li> </ul>
ナシ	黒星病	-	平年並	小	普通	発病密度				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 昨年の発生が多かった圃場では、天気予報の降雨の情報に注意し、防除適期を逃さないようにしてください。</li> <li>2) 発病が確認されたら追加防除を行ってください。</li> </ul>
	赤星病	-	平年並	小	普通	ビャクシン類の冬孢子発芽		ナシの発病		<ul style="list-style-type: none"> <li>1) カイツカイブキ等の枝葉に生成された病原菌が飛散して、ナシに感染します。</li> <li>2) 病原菌は雨中の風によって飛散し、主に降雨中に感染します。</li> </ul>
	ハダニ類	-	平年並	小	普通	成ダニ密度				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 発生が見られる圃場では、低密度のうちに防除してください。</li> </ul>
	アブラムシ類	-	平年並	小	普通	ナシノアブラムシ		ナシミドリオオアブラムシ		ワタアブラムシ ユキヤナギアブラムシ

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
果樹共通	カメムシ類	-	やや多	小	普通		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病害虫防除技術情報第 18 号(3 月 14 日発表)。</li> <li>2) 本年は越冬量が多いため、圃場をよく見回り、早期発見に努めてください。</li> <li>3) 山林に近い圃場や過去に多数飛来があった圃場では、飛来に注意してください。</li> <li>4) 果樹カメムシ類は、4 月はウメ、5 月はナシ、ビワ、モモに飛来します。</li> <li>5) 防除は圃場及び圃場周辺(街灯への夜間飛来など)への果樹カメムシ類の飛来を確認して行ってください。</li> <li>6) 一旦飛来すると連続して飛来することが多いので、防除実施後も注意してください。</li> </ol>			
	カンザウハダニ	-	やや少	小	普通		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 葉裏に生息しているので、ていねいに散布を行ってください。</li> <li>2) 圃場によっては密度の高い場合があるので、発生に注意しましょう。</li> <li>3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避けてください。</li> <li>4) 天敵への影響の小さい薬剤を選択しましょう。</li> </ol>			
	チャノホソガ	-	少	小	低		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新芽の裏に産卵します。新芽の裏を観察し、若齢幼虫を確認して防除しましょう。</li> <li>2) 第 1 世代幼虫の防除適期は、4 月第 6 半旬～5 月第 4 半旬頃です。</li> <li>3) 病害虫防除所ホームページにフェロモントラップ誘殺状況を掲載しているので参考にして下さい。</li> </ol>			
チャノキイロアザミウマ	-	やや少	小	低		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新芽の葉柄基部や未展開葉の内側などを吸汁加害します。</li> <li>2) 新芽の伸長と共に発生量が増加します。</li> <li>3) 有効積算温度による予測式(4 月 22 日現在)では、第 1 世代成虫発生盛期は 5 月第 5 半旬頃です。</li> <li>4) チャ以外にも果樹類、サクラ、イヌマキなども発生源となるので、これらの植物が付近にある場合は発生に注意しましょう。</li> </ol>				

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	クワシロカイガラムシ	-	やや多	中	普通			第1世代 成虫密度		<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 幼虫の孵化最盛期の2日後から3日間に防除しましょう。</li> <li>2) 有効積算温度による発生活長予測式(4月22日現在)では、孵化最盛日は5月18~19日と予測され、防除適期は5月第4~5半旬頃と予想されます。標高が低い所では早く、標高が高い所では遅くなります。</li> <li>3) 薬液を十分確保して、専用ノズルを使う等、樹冠内の枝に十分薬液がかかるように散布しましょう。</li> <li>4) 天敵保護のため、天敵への影響の小さい薬液を選択して使いましょう。</li> </ul>
	チャノコカクモンハマキ	-	やや少	小	低	成虫密度				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 幼虫は孵化数日後に葉を2~3枚綴るようになるので、薬液がかかりにくくなります。孵化直後の若齢幼虫を対象として防除してください。</li> <li>2) 発蛾最盛期の7~15日後の幼虫孵化期が防除適期です。例年、第1世代の防除適期は5月中~下旬です。</li> <li>3) 病害虫防除所ホームページにフェロモントラップ誘殺状況を掲載しているので参考にしてください。</li> </ul>
イチゴ	ハダニ類	-	やや多	中	普通	成ダニ密度				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 圃場によって発生にばらつきがあります。こまめに圃場を観察し、発生状況を確認してください。</li> <li>2) 薬液がかかりやすくなるよう、不要な下葉を除去し、葉裏にもかかるよう丁寧に散布してください。</li> <li>3) 薬液抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬液の連用は避けてください。</li> <li>4) 薬液散布の際は、収穫前日数と総使用回数を守り、天敵やミツバチに対する影響も十分考慮して、薬液の選択を行ってください。</li> </ul>

### 3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネミズゾウムシ	平年並	やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1か月予報(4月17日発表)によると、4月第4週から5月第1週の気温は平年並の予想(発生時期±)</li> <li>2) 4月20日現在における有効積算気温(発育零点13.8)は、21.4日度(平年16.7日度)と高(発生時期-)</li> <li>3) 予察灯(4月第1半旬~第4半旬)では、未飛来(平年4月29日初飛来)と平年並(発生時期±)</li> <li>4) 予察灯(昨年7月第1半旬~9月第2半旬)では、誘殺数は175頭(平年151.3頭)とやや多(+)</li> <li>5) 巡回調査圃場(昨年8月)では、発生圃場率14.7%(平年12.6%)と多、払い落とし虫数0.2頭(平年1.0頭)と少(±)</li> </ol> <p>考察: 今後の気象条件を重視して、発生時期は平年並、昨年の予察灯および巡回調査結果から、越冬成虫の予想発生量はやや多と考えます。</p>
コムギ	赤かび病	-	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1か月予報(4月17日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想(±)</li> <li>2) 作況試験田(11月16日播種・品種あやひかり・松阪市)では、出穂期は4月12日(平年4月13日)と平年並(±)</li> <li>3) 一般圃場では、生育の進展は、一部の播種時期の遅い圃場で遅れているが、多くの圃場では平年並(±)</li> </ol> <p>考察: 今後の気象条件、作況試験田、一般圃場の状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	-	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1か月予報(4月17日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想(±)</li> <li>2) 県予察圃(4月中旬)では、新葉での初発日4月15日(平年4月19日)とやや早かったものの、発病率は0.0%(平年1.0%)と平年並(±)</li> <li>3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、全調査圃場において病斑未確認で平年並に少(旧葉発病度平年0.1)(±)</li> <li>4) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概して平年並)(-)</li> </ol> <p>考察: 現状の発生量は平年並に少なく、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	かいはよう病	-	温州 平年並  中晩柑 平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1か月予報(4月17日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想(±)</li> <li>2) 県予察圃(中晩柑類4月中旬)では、越冬病斑の発病葉率26.1%(8年平均31.6%)と少の傾向(-)</li> <li>3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、温州みかんでは旧葉発病度0(平年0.4)と平年並に少(±)、中晩柑類では旧葉発病度0.9(平年4.9)と少、中晩柑類の発生圃場率50%(平年66.8%)と少(-)(-)</li> <li>4) 一般圃場では、発生量は平年並(±)</li> </ol> <p>考察: 温州みかんでは平年発生は少なく、予想発生量は平年並と考えます。中晩柑類では、一般圃場の状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ナシ	ミカンハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4月17日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(4月中旬)では、100 葉当り雌成虫寄生頭数は、無防除区 16.7 頭(平年 79.1 頭)とやや少(-)、慣行防除区 0 頭(平年 0.3 頭)と平年並(±) (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、発生圃場率 38%(平年 39%)と平年並(±)、旧葉寄生率 2.5%(平年 7.7%)と少(-)、雌成虫寄生頭数 0.04 頭/葉(平年 0.25 頭/葉)と少(-) (-)</p> <p>4) 一般圃場での発生量は、やや少～平年並(概してやや少) (-)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、大きな増加の要因はないことから、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	黒星病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4月17日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、発病葉率 0%(平年 0%)と平年並に少 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少なく、大きな増加の要因はないことから、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	赤星病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4月17日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、発病葉率 0%(7年平均0%)と平年並に少 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少なく、大きな増加の要因はないことから、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ハダニ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4月17日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、寄生葉率 0%(7年平均0%)と平年並に少の傾向 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少ないことから、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	アブラムシ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4月17日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、寄生枝率 0.8%(9年平均0.4%)とやや多の傾向 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、一部の圃場で発生がみられるものの平年並に少 (±)</p> <p>考察：一般圃場の状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
果樹共通	カメムシ類	-	やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 予察灯(御浜町 4月1日～20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 10頭(平年 66.9頭)、ツヤアオカメムシ 63頭(平年 102.2頭)といずれもやや少 (-)</li> <li>2) 予察灯(畑・松阪市 4月1日～20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 0頭(平年 0頭)、ツヤアオカメムシ 0頭(平年 0.1頭)といずれも平年並 (±)</li> <li>3) 県予察圃フェロモントラップ(4月1～16日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は山地(津市白山町川口)6頭(平年 4.5頭)、中間地(津市白山町二本木)1頭(平年 1.5頭)、平坦地(松阪市嬉野川北町)0頭(平年 0.4頭)と平年並 (±)</li> <li>4) チャバネアオカメムシの越冬量は、1地点当り 19.3頭(平年 1.5頭)、クサギカメムシの越冬量は、1地点当り 182頭(平年 47.1頭)といずれも多 (+)</li> <li>5) 巡回調査圃場(4月第2週)では、カンキツ圃場への飛来は未確認 (±)</li> <li>6) 一般圃場では、カンキツでツヤアオカメムシが散見 (+)</li> </ol> <p>考察：現状の発生量は平年並ですが、越冬量が多いことから、今後の圃場への飛来数の予想発生量はやや多と考えます。</p>
	チャ	カンザワハダニ	-	やや少
	チャノホソガ	-	少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1か月予報(4月17日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</li> <li>2) 県予察圃では、萌芽日は4月8日(平年 4月10日)と平年並、初飛来は3月27日(亀山市:平年 3月18日)と遅。誘殺数(3月第5半旬～4月第4半旬)は 202.3頭(平年 680.6頭)と少 (-)</li> <li>3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、新芽への産卵は未確認 (-)</li> <li>4) 一般圃場では、発生量は少 (-)</li> </ol> <p>考察：現状の発生量は少と考えられ、引き続き予想発生量は少と考えます。</p>



作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノキイロアザミウマ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4月17日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(4月第1半旬～第4半旬)では、吸引粘着トラップ捕殺数 39 頭(平年 140.8 頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、たたき落とし虫数 0.7 頭(平年 2.6 頭)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、大きな増加要因がないことから、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	クワシロカイガラムシ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4月17日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、発生圃場率 82.6%(平年 75.7%)と多、雌成虫寄生株率 25.2%(平年 15.5%)と多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや多 (+)</p> <p>考察：現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
	チャノコカクモンハマキ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4月17日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(4月第1半旬～第4半旬)では、フェロモントラップ誘殺数 39.3 頭(平年 88.3 年頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、巻葉数 0.1 枚 / m<sup>2</sup>(9年平均 0.4 枚 / m<sup>2</sup>)、幼虫数 0.1 頭 / m<sup>2</sup>(4年平均 0.2 頭 / m<sup>2</sup>)と少の傾向 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
イチゴ	ハダニ類	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4月17日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、寄生株率 11.2%(平年 16.5%)、寄生程度 3.9%(平年 10.2%)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや多～多(概して多) (+)</p> <p>考察：巡回調査結果及び一般圃場の状況から、現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>

## 4. 予察項目の見方

### 1) 「作物別の状況」の見方

**発生時期(平年比)：** 平年の発生日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価	早	やや早		平年並				やや遅			遅			

**発生量(平年比)：** 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

			平年値 ↓			
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並	やや多	多	

**発生量(程度)：** 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比

べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

**要防除圃場率(平年比)：** 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

**発消長の一例：** 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

**防除の注意事項：** 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

### 2) 「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

## 5. 今月のトピックス「イチゴ萎黄病について」

### イチゴ萎黄病とは？

イチゴ萎黄病は土壌伝染性の病害であり、苗や土壌を経由して伝染します。多発すると収穫量が大きく減少し、圃場に壊滅的な被害をもたらします。罹病性は品種によって差があり、近年三重県で普及が進む「かおり野」(図1)は、「章姫」と比べると本病を発病しやすい品種であるため、注意が必要です。

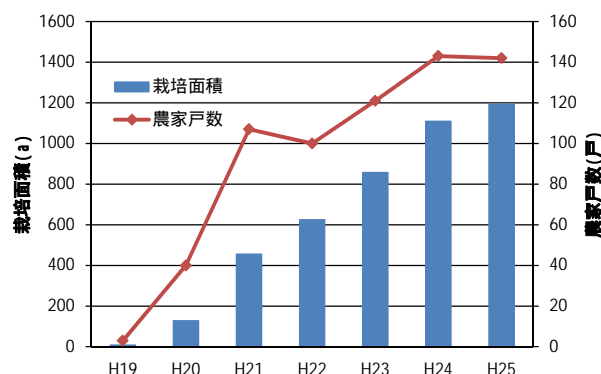


図1. 三重県における「かおり野」の栽培面積と農家戸数の推移  
(三重県中央農業改良普及センター調べ)



図2. 萎黄病によるイチゴの葉の病徴  
(三重県中央農業改良普及センター原図)  
新葉の1~2葉が小型化して舟形になってねじれ、黄化する

図3. 萎黄病発病株のクラウン部切断面  
(三重県農業研究所原図)  
導管部分が褐色~黒褐色に変色する。発病株では根にほとんど新根が見られない

### 病徴と被害

新葉の奇形・黄化を生じ(図2)、その後株全体の生育は悪くなり、最後には枯死します。また、収穫期に発病すると、着果数が減り、果実の肥大が悪くなります。発病した株のクラウン部や葉柄を切断すると、導管の一部または全体が褐色~黒褐色に変色し、萎黄病の診断材料となります(図3)。

### 病原菌の生態と感染経路

本病の病原菌(*Fusarium oxysporum* f.sp.*fragariae*)はカビ(糸状菌)の一種で、病原菌はイチゴにのみ感染します。病原菌は耐久性の高い厚膜胞子を形成し、土壌中に長期間(数年間)残って伝染源となります。その後、イチゴの根から侵入し、導管を侵して発病します。導管内の菌糸はランナーに移行し、苗に感染拡大します。

### 発生しやすい条件

発病に最適な土壌温度は25~30℃です。真夏の7~8月頃に最も発病しやすくなります。また、本病の発病した圃場に連作すると被害が大きくなります。

### 防除対策

- 1) 親株には必ず無病株を選び、毎年更新しましょう。
- 2) 育苗圃では苗を十分に選抜し、本圃へ罹病株が持ち込まれることの無い様、注意しましょう。
- 3) 発病株は速やかに抜き取り、圃場に放置せず焼却しましょう。
- 4) 発病が見られた圃場では、次作の作付け前にクロルピクリン剤等で土壌消毒を行いましょう。
- 5) 発病のあった育苗トレイやポットは消毒を行い、育苗培土についても消毒するか、新しいものを使用しましょう。

## 6. 気象のデータ

### 東海地方 1 か月予報 (平成 26 年 4 月 17 日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう 1 か月は、低気圧と高気圧が交互に通るため、天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

1 週目 4 月 19 日 ~ 25 日	期間の中頃にかけて気圧の谷の影響で雲が広がりやすく、雨の降る日があるでしょう。終わりは高気圧に覆われて晴れる見込みです。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 2.0 日・4.3 日
2 週目 4 月 26 日 ~ 5 月 2 日	低気圧と高気圧が交互に通り、天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	同 2.1 日・4.3 日
3~4 週目 5 月 3 日 ~ 16 日	低気圧と高気圧が交互に通り、天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	同 4.8 日・7.8 日

### 東海地方週間天気予報 (平成 26 年 4 月 23 日 10 時 30 分 名古屋地方気象台発表)

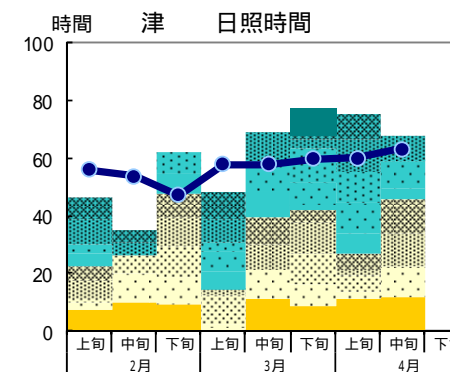
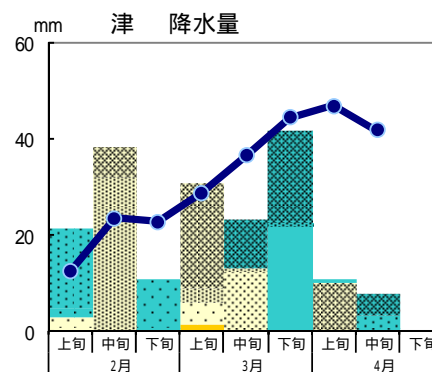
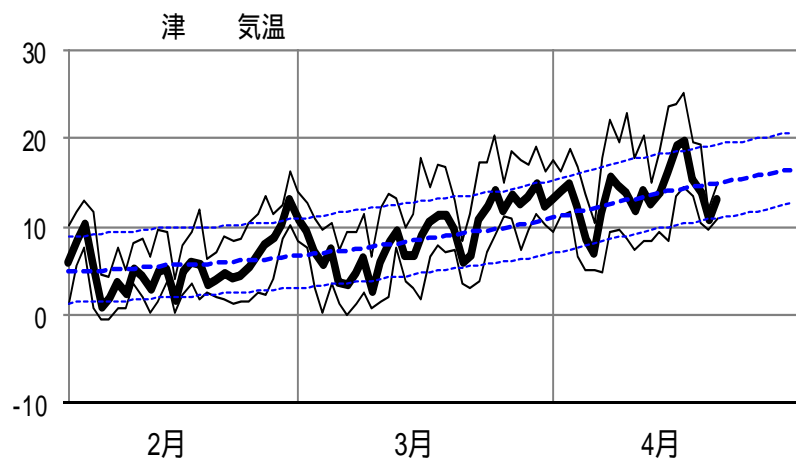
予報期間 4 月 24 日 ~ 4 月 30 日

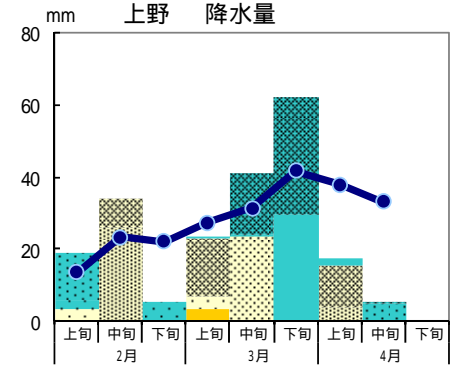
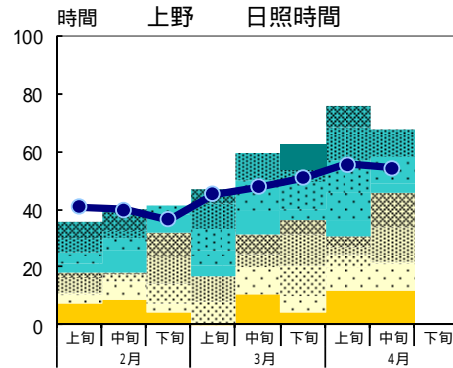
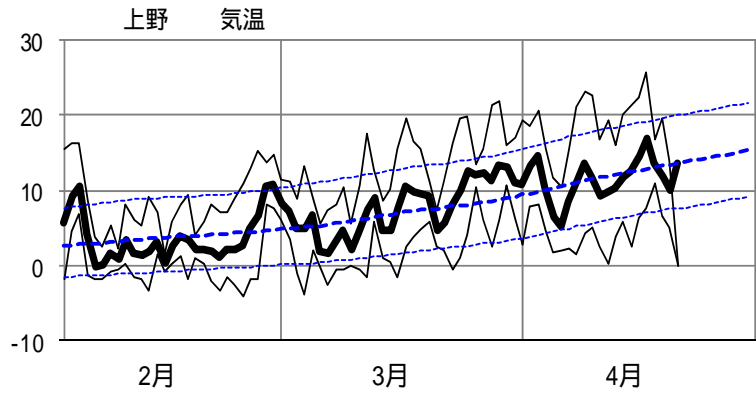
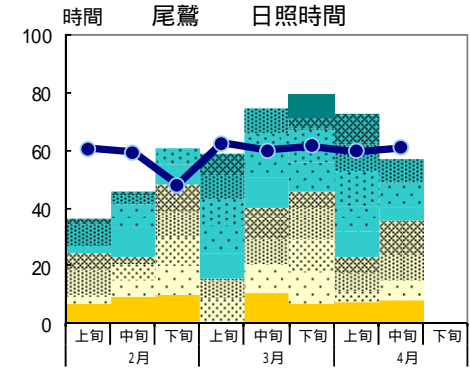
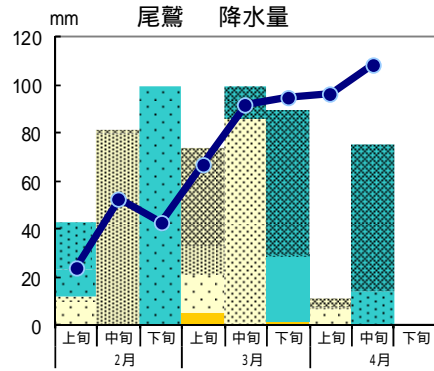
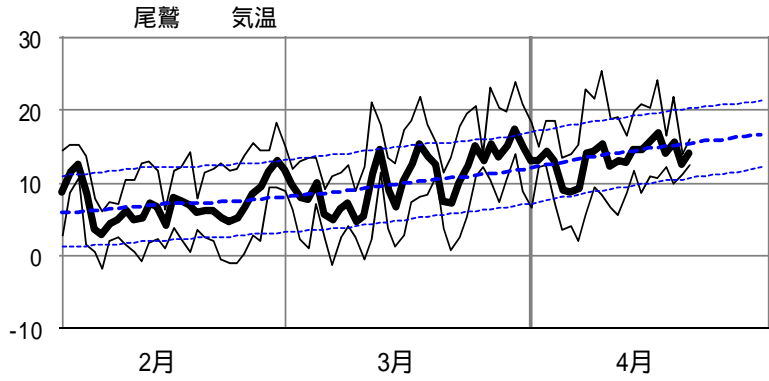
向こう一週間は、22 日と期間の終わりは気圧の谷の影響で雲が広がりやすく、終わりは雨の日があるでしょう。その他は高気圧に覆われて概ね晴れる見込みです。

最高気温は、平年並か平年より高いでしょう。最低気温は、平年並か平年より低い見込みです。

降水量は平年並でしょう。

### 気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (4 月 21 日まで)





- 凡例
- 平均
  - 最高
  - 最低
  - - - 平年平均
  - - - 平年最高
  - - - 平年最低

- 凡例
- 31日
  - 旬10日目
  - 旬9日目
  - 旬8日目
  - 旬7日目
  - 旬6日目
  - 旬5日目
  - 旬4日目
  - 旬3日目
  - 旬2日目
  - 旬1日目
  - 旬平年値

- 凡例
- 31日
  - 旬10日目
  - 旬9日目
  - 旬8日目
  - 旬7日目
  - 旬6日目
  - 旬5日目
  - 旬4日目
  - 旬3日目
  - 旬2日目
  - 旬1日目
  - 旬平年値

## 7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

### 1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

### 2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 第1回 4月24日(今回) | 第2回 5月29日(木)  |
| 第3回 6月26日(木)  | 第4回 7月24日(木)  |
| 第5回 8月28日(木)  | 第6回 10月23日(木) |
| 第7回 3月19日(木)  |               |

### 3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

### 4) 本冊子の利用の手引き書 **NEW**

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアド

レスからお入りください。

[http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h26yohotebiki\\_.pdf](http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h26yohotebiki_.pdf)

### 5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

### 6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

### 7) IPM(総合的病害虫・雑草管理)実践指標について

三重県では IPM を実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。病害虫防除所ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産物安全課ホームページ内

<http://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/work/ipm/main.htm>